

デンソー山岳部（Bパーティー） 2013年 冬山合宿報告書

山城 中央アルプス 空木岳

日程 平成25年12月27日～12月29日（予備日1日）

メンバー	山田 明（CL）	方田 智貴（SL・装備）	津田 廣一（会計）
	松浦 英樹（食糧）	町田 修（気象）	金子 清（渉外）
	竹内 幹雄（記録）	藤田 勝啓	谷川 圭介（記録）



駒峰ヒュッテと空木岳頂上



今回のルート

第1日 : 12/27（金） 曇り 歩行=4H20M

【行動記録】前夜発（刈谷）—（前泊：道の駅 花の里いいじま）

起床（4：00）—林道ゲート駐車場（6：45）—1本（7：35）—林道終点・1本（8：05）—1本（9：35）
—池山小屋水場（10：15）—ワカン装着（10：45）—マセナギ手前・尻無（テン場）（11：45）

前夜に車で刈谷を出発、豊田南I・Cから高速に乗り中央道、松川I・Cを出て駒ヶ根方面に向かい途中道の駅「花の里いいじま」の駐車場に車を置き仮眠する。翌朝、池山尾根の麓に向かう。林道ゲート手前に車を置き出発。A・Bパーティーともに初日は同じルートを進むので途中まで一緒に行動する予定である。曇り空の中、雪に埋もれた林道を歩いて行く。途中から登山道に入り登って行く。やがて林道終点に到着、1本取る。雪は思ったほど多くなく、つぼ足で進めそうだ。ここまで歩いてきたら汗が出るほどになり1枚脱ぐ。歩いているとちょうど良い感じだ。ここからは登山道を登って行く。

新雪で踏み跡が見えない中を方田さんが先頭に進んでいく。膝下まである雪を踏みしめながら登って行く。先頭はラッセルでバテないように順番に次の人と交代しながら進む。池山小屋水場を過ぎて雪が深くなってきたところでワカンを装着。ここから先はAパーティーが先に進むことになった。長丁場のAパーティーは今日のテント場を少しでも先に進めるためだ。ワカン装着で少し歩きやすくなった。そして、我々Bパーティーは出発から5時間でテント場に到着。テントを張った後、ザイルを使ったトラバース訓練を行い明日の行動に備えた。その後はテントの中でくつろぎ、夕食、歓談をした後20時就寝、明日の天気良くなることを祈りながら眠りに入った。

（記：竹内）



テン場

第2日 : 12/28（土） 曇り 歩行=9H15M

【行動記録】 起床（4：30）—尻無（6：30）—1本（8：00）—[アイゼン装着]（8：40）—大地獄・小地獄（8：45）—迷い尾根（9：00～9：40）—1本[アタック組先発]（10：00）—ヨナ沢の頭（10：30）—分岐手前・待機（11：30～12：00）—アタック組と合流（12：30）—ヨナ沢の頭（13：00）—迷い尾根（13：30～14：20）—大地獄・小地獄（14：45）—尻無（15：55）

我らBパーティーよりも先行しているAパーティーの情報より、この先、難所では雪崩の危険もあり、想定よりも時間がかかるということから、山田リーダーの指示で、引き返しのタイムリミットを11時30分とし、また、行動計画時間も8時間と長く、早朝の出発としたいところだが、難所を暗闇で進むのは危険であることから、6時30分出発としていた。寒波が近づいてきているとの大矢さんの情報から、山頂-20度、風速20m/s、体感温度-40度と厳しい天気が予想されていたが、テント場は、思ったほど寒くなく、晴れ。しかし、昨夜の雪で~10cm程度積もったようだ。

前日から気温も低く、柔らかな雪質のため、ワカンを履き、この先の難場に備えてハーネスを装着し出発する。Aパーティーのトレースが僅かに残る形跡をたどり、先頭を交互に変わり、一步一步進んで行く。

このルートの最大の難所である小地獄、大地獄、迷い尾根の一带に差し掛かったところで、アイゼン、ヘルメットを装着。氷雪がついた階段や鎖場を越え、小地獄上部のトラバースに入る前に、尾根に沿って登るトレースが続いている。どうやらAパーティーは、夏のトラバース道をさけ直登コースを進んでいるようであり、我々もト



小地獄上部でのトラバース

レースをたどり急登を苦勞して登りきる。小地獄の上部には急斜面のトラバースが数カ所あり、足を滑らせたなら遙か下まで落ちてしまうようないやらしい所もあった。ここは”雪崩注意”の場所でもあり、ザイルを使う。ロープワーク(中間支点を安全に通過するためにカラビナを2枚)は、前日訓練したこともあり、全員難なく通過するが、この一帯の通過に時間がかかる。

難所を超えたところで、隊列が乱れ気味となり、山頂を目指すパーティ(町田、金子、藤田、方田)を組み先を進む。さらに雪が深くなるものの、Aパーティのトレース(ワカン跡)が残るため、順調に空木岳頂上を目指す。樹林帯が浅くなりつつあったところで、前方奥に綺麗な雪山”空木岳方面の山々”、手前に人影”3名”が確認できた。3名は、空木岳をアタックしている予定のAパーティであった。雪が深いため、想定より前進は困難とこのことから、一度空木岳避難小屋でテントを確保したのち、アタックするとのこと。合流地点から空木岳までは、まだ90~120分かかる距離を残したところで、丁度タイムアップ。樹林帯を抜けた後に期待していた爽快な稜線歩きは、次回に持ち越し、泣く泣く撤退。しかし、ここまでこれたのも、Aパーティのトレースがあり、天候が安定していた為であり、決して無理をせず中止撤退が一番必要なことだと思う。丁度この時間帯より、寒波が近づいてきたのか気温がグッと下がる。小地獄のトラバース前で、Bパーティ合流し、テントに戻る。

合宿最後の夜は、松浦さん(&奥さん)の思考を凝らしたキムチ鍋で盛大に打ち上げ。雪山登頂の厳しさ、難しさを痛感し険しかった皆の顔が笑顔に変わる。雪山でこんなにもお腹が一杯になり、美味しいと思える鍋が食べれると思っていもいなかった。

(記:方田)



マセナギより

第3日 : 12/29(日) 晴れ 歩行=2H30M

【行動記録】 起床(5:30) — 尻無(7:35) — 池山小屋水場(8:10) — 1本(8:40) — 林道終点(9:10) — 展望台(10:00) — 林道ゲート駐車場(10:05) — こまくさの湯[入浴・昼食](10:45~13:00) — 刈谷(15:40)

天気は3日目にして、就寝中に時々吹いていた強風が嘘のように、風も無く晴天となった。朝食の味噌煮込みうどんを食べ、全員で手際よくテントを撤収したが、テントポールの接続部が凍結で外れず、息を掛けながらの作業となった。装備分担で行きと同じV8点テントの外装を引き取ったが、若干水分(氷)を含んでおり、食料で減った分が帳消しになった感じであった。テントを分担するのは、力自慢になるかもと思いながら、9人そろって歩き出す。



遠く南アルプスを望む

途中、3組程の登山者とすれ違う。やはりこの晴天で入山者が増えようだ。そのお陰もあり、トレースで雪も締まっており、歩きやすかった。ただし、池山小屋水場付近のつづら折りの下りをショートカットしてのラッセルで、ザック横に入れておいた水筒を落としてしまった。直後は落胆したものの、幸い直ぐに見つかって大事にならなかった。教訓としてポケットへの水筒は要注意である。

途中、駒ヶ根市街の向こうに遠く南アルプスが望めるポイントがあり、美しい山並みも素晴らしく、程なく林道終点に到着、下りとは言え、晴天の無風で暑く、水筒の水がおいしい。本当に見つかった良かったと実感した。

林道ゲート駐車場前の展望台にて記念撮影し、最後は握手で互いの健闘をたたえあった。

その後は、こまくさの湯で3日間の疲れを癒し、昼食に名物のソースかつ丼を堪能。高速道路も渋滞なく、3時過ぎには刈谷に無事帰着した。

3日間は寒さと重い荷物の辛さもあったが、天気も荒れる事なく、安全に登山出来たこと、暖かいテントでの食事やみんなとの楽しい宴会で充実した3日間でもあった。（記：谷川）



林道ゲート展望台にて

<リーダー所見 山田>

今回、Bパーティーは、合宿の目的である『新人の育成』に加え、昨年の八ヶ岳からのステップアップとして、中央アルプス空木岳の計画を設定した。27日のテ場までの行動は、他の入山者が無く、トレースが新雪で殆ど消えていたため、ラッセルやルートファインディングを実践出来る良い機会となった。28日の頂上アタックは、引き続きのラッセル歩行に加え、強い寒気の接近による低温下での行動、核心部の小地獄・大地獄では、アイゼンを着けた状態での急な岩稜帯歩き、ザイルを使った急斜面のトラバースを実践出来た。特に、急斜面のトラバースは、数百メートル切れ落ちた急斜面で雪崩も懸念されたが、前日のザイルワーク訓練の成果で迅速に行動出来、安全に通過する事が出来た。結果、一連の雪山行動を実践する事が出来たと考えます。メンバーの構成上、体力や技術のバラツキで行動に時間が掛かり、頂上に辿り着けなかったが、この点を各自が課題として認識し、今後も雪上技術や体力の向上に努めて頂きたいと考えます。最後に、今回、合宿を無事に終える事が出来たのは、A・Bパーティーがお互いに連携して行動出来たからと考えます。大矢さんの気象サポートも含め、参加メンバーの皆さん、御協力どうもありがとうございました。

<食糧所見 松浦>

食糧計画	26日(木)	27日(金)	28日(土)	29日(日)	30日(月)
朝食		各自	ラーメン	うどん	非常食(各自)
昼食		各自(行動食)	各自(行動食)	各自	
夕食	各自	・レトルトカレー ・白米 ・卵スープ	・キムチ鍋 ・ラーメン ・海藻サラダ		
その他	おつまみ・コーヒー・お茶・コンデンスミルク等				

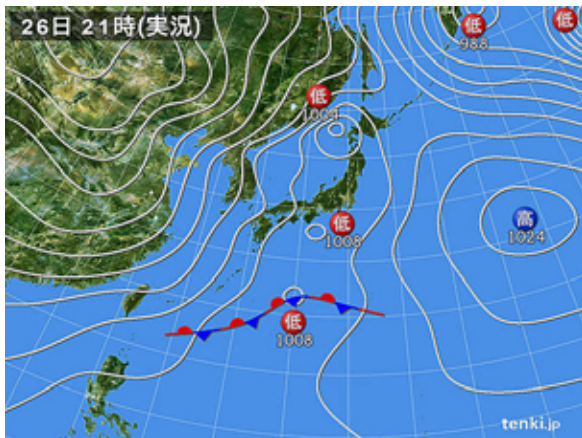
- ・アタック日の夕食は今年最後の登山となるため、皆でワイワイと宴会気分キムチ鍋を計画した。9人分の野菜、肉を持ち上げるのに苦労した。鍋の素は軽量化を考え、固形のものを選定。（鍋キューブ）味は液体の素と変わらず美味しく、大盛況であった。
- ・ラーメンに入れる具は卵スープなどを利用して味付けした。食材の購入時に人数と個数が合わない時などに応用できる。
- ・うどんなどを作る時に乾麺や乾とうふなど乾物で作る場合は、水の量を多めにしないと失敗するので次回から気をつける。

<装備所見 方田>

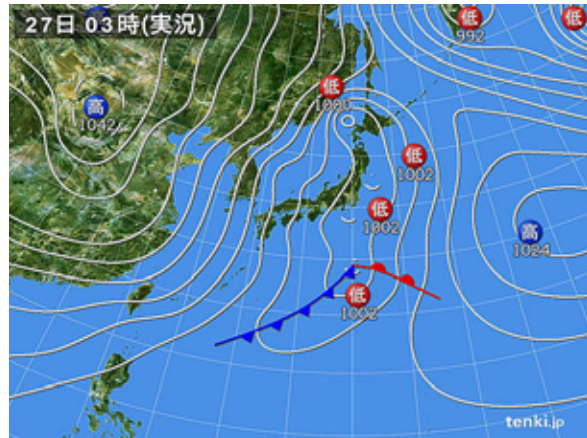
冬山山行に必要なゾンデ棒とビーコンは、今後の冬山参加者増加を見越して買い増しが必要である。今回、ビーコンは1個不足、ゾンデ棒は丁度の数であった。

<気象報告 町田>

12/26(木) 刈谷→駒ヶ根

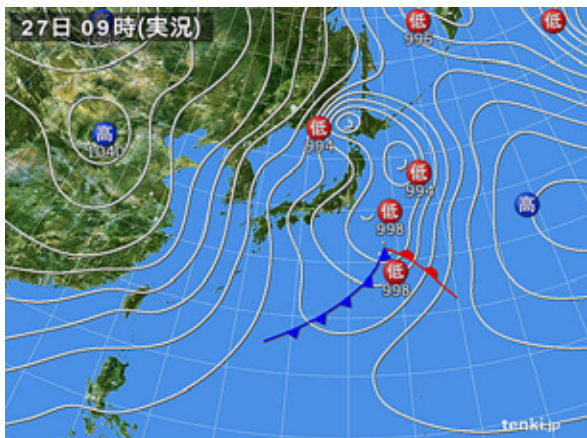


刈谷/雨

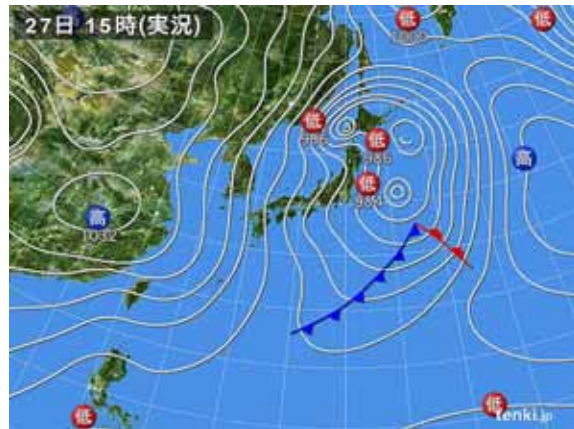


駒ヶ根道の駅/みぞれ~雪

12/27(金) 登山口→2000m B C



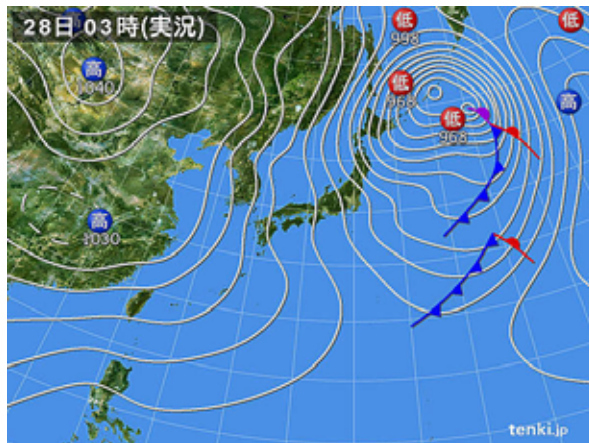
登山口/晴れ
2℃ 微風



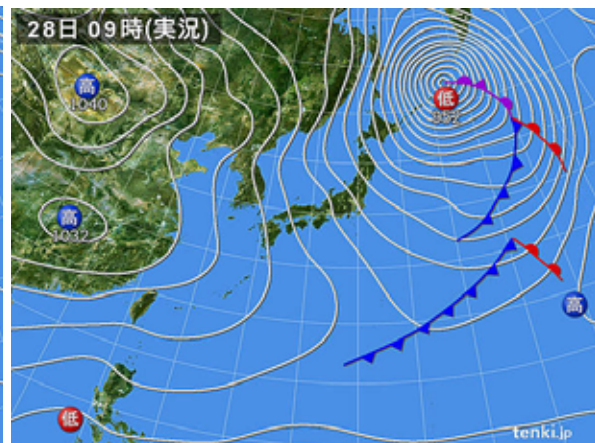
2000m B C/晴れ~曇り
-7℃ 微風

* B Cは風の影響を受けにくい地形で、時折林の上を風が吹き抜けていく。
気温は随分下がっており、テント設営やロープワークトレーニング時はかなり冷たく、
手足の先がしびれる。

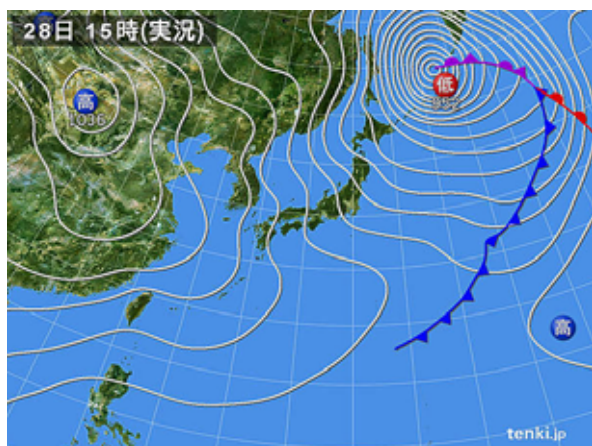
12/28(土) 2000m B C→空木避難小屋分岐 2550m→2000m B C



2000m B C/晴れ
-14℃ 微風



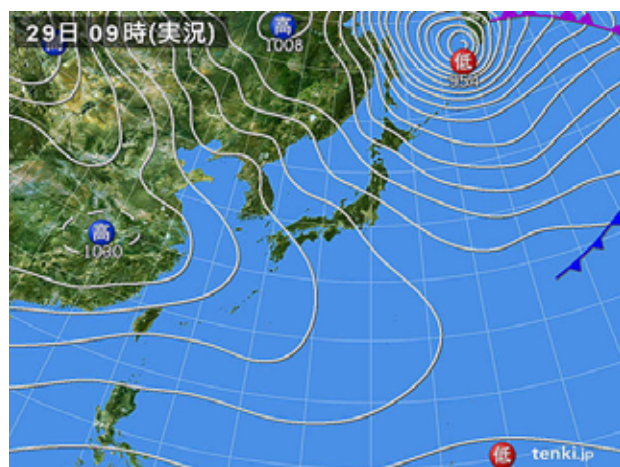
空木避難小屋分岐 2550m/曇り
-20℃ 微風



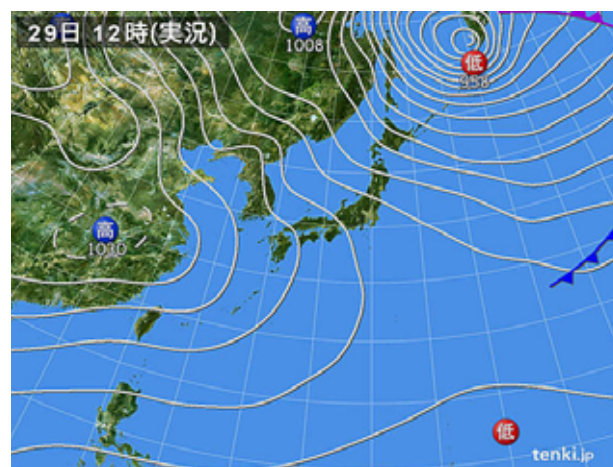
2000m B C / 曇り
 ≒ -15°C 微風

終日冬型の気圧配置だが行動中は風の影響をほとんど受けず、時々谷からの吹きあげの風にフードをかぶる程度で冬型の強風をまったく受けない。しかし相変わらず気温は低く、トラバースルートのフィクスロープ通過待ち時は手足の先がしびれる。

12/29(日) 2000m B C → 登山口



2000m B C / 晴れ
 ≒ -15°C 微風



登山口 / 晴れ
 ≒ 2~3°C 微風

* B Cではテント撤収時、低温のためポールが凍りつき分解するのに随分手間取る。しかし冬型はゆるみ、登山口付近では展望台から南アルプスの眺望が素晴らしく、八ヶ岳の蓼科山から仙丈ヶ岳・聖岳あたりまできれいに認識できた。

■感想

初の冬合宿参加で、夏山とは異なる経験ができた。初日、手袋で拭いた顔の汗が、昼過ぎの雪上訓練では、この上なく冷え、凍傷になるのではと感じた。雪山での最低限のスキル、必要スキル、体力、全てが不足していることを経験できた有意義な合宿だと感じた。ただ、達成感、充実感、景観も素晴らしいものだという事も同時に感じた。メンバーに感謝。山に感謝。またリベンジしたい。【方田】

冬山とすれば、天候にも恵まれていた様にも思うが、時間切れ撤退で登頂できなかったのは残念です。同時に、冬山の厳しさを痛感できた山行でもあったと思う。個人的には、トップのスピードについていくだけの体力がなかった事もあり、来年のピスコ山の為にも、体力強化の新規トレーニングを痛感した山行であった。9人の仲間と、寒くて厳しい冬山を共有できた事は良かったと思います。【津田】

初の本格雪山であり、体力と寒さの心配が懸念されたため、出来るだけ体力を使わないように後ろの方を歩かせてもらったが、それでも雪に足を取られ、時には踏み抜き、想像以上に体力を消耗した。標高が上がるにつれ風も強くなり、じっとしてると一気に体が冷えてくる。そんな中、危険個所でのザイルワーク、9時間半の行動を終え体は冷え冷え、体力はヘトヘトとなってあきまった。やはり雪山は厳しい…。しかし、ザックを下した瞬間元気になる！テントの中で暖をとり、皆で乾杯！ビールを一気に喉へ流し込む！これで一気に疲れが吹き飛んだ。

夕食は今年最後の登山となることを考え、鍋パーティを計画した。みんなで酒を飲みながら団欒するひと時、最高だった！これがあるから山はやめられない！笑 下山時に深雪のラッセルを体験したが、これがまた気持ちよくて楽しかった！が・・・ものすごく疲れる。一気に汗が噴き出す。下りでこれじゃ上りは相当厳しく、今の自分では無理だと感じた。もっともっと体力をつけないと雪山は厳しいと感じた。体力作りがんばります！！【松浦】

二桁のメンバーで冬山合宿を実施できるクラブ組織の充実を感じる。反面、Aパーティレベルの体力・スキル保持者が少なく、人的機動力が発揮しきれないジレンマがある。Bパーティに継続的に若手を投入して体験を通じてスキルアップさせ、Aレベル層を厚くさせる必要を感じる。

Bパーティでは合宿前の体力強化（歩くのに精いっぱいラッセル集団に上がってこれない）と個人装備の使いこなし（テクニックと装着スピード）を各位にお願いしたい。

2013年も多くのメンバーと冬合宿で汗をかける幸せと充実感はなによりである。工夫した鍋料理の美味しさや、新人たちとの語らいに寒さを忘れた冬山の楽しさを感じる。【町田】

ここ数年、八ヶ岳での冬山合宿が続いていたが、今回は中央アルプス 空木岳での合宿となった。予想どおり登山者は少なく、登りは我々だけ、降りは数人と出会っただけと静かな登山となった。

今回、初めて冬山合宿に参加された谷川さん、松浦さん、方田さんにとっては、やや厳しい登山となったが、ザイルワーク、アイゼン・ワカンを使った雪上歩行、酷寒を体験など学ぶことが多々あったと思う。今回の経験を今後の山行に活かして下さい。また御一緒できる日を楽しみにしています。【金子】

冬山合宿に参加するのは4年ぶりです。寒さに弱くなって控えていましたが、やっぱり冬山は寒いです。その寒さを感じながら仲間と一緒にテントの中で過ごす時間、下山後に入った温泉のぬくもり、このギャップが何とも至福を感じさせてくれました。参加されたみなさんには大変お世話になり感謝します。ありがとうございました。【竹内】

来夏のピスコ登山のトレーニングを兼ねて、十数年ぶりに急きょ冬山合宿に参加させていただきました。久しぶりのテント泊なので寒さや雪上歩荷が心配で、自宅のベランダビバークや奥三河の里山での歩荷訓練を数回こなし本番を迎えましたが、楽しみ半分と体力不安が半分でした。しかし、山に入ると昔を思い出しラッセルやザイルワークもそれなり出来たかなと思います。また、メンバーは昔からの旧友と初めて同行する若手部員でしたが直ぐに打ち解けて楽しく登れました。特に若手部員はデンソー山岳部の良いところを引継いでいてくれて頼もしく感じました。暫く山岳部を離れていた私が言うのもおこがましいですが・・・【藤田】

今まで小屋泊まりしか経験が無かったため、寒いテントでの過ごし方に不安がありましたが、なんと暖かい事だったでしょう。コンロを囲んだ皆さんとの宴会で、寒さなんか忘れて盛り上がり楽しかったです。ザイル訓練と実践も勉強になりました。ご指導ありがとうございました。スキル・体力向上に向けて精進してまいります。【谷川】

<会計報告 津田>

【費用】 一人あたり 約 5,830 円 (Bパーティ)

・食材・嗜好品 7,831 円 : レトルトカレー、豚肉、ラーメン、鍋キューブキムチ、無洗米、味噌煮込みうどん、海藻サラダ等、おつまみ他

・高速道路 15,000 円 : 往復 5000 円×3 台として計算 (片道 2500 円)

・ガソリン代 19,600 円 : 移動 340 キロ (片道 170 キロ)、レギュラー 155 円、3 台

・車消費費 5,100 円 : 5 円/キロ (3 台)

・温泉代 4,950 円 : 550 円×9 人 (交渉して、600 円を割引)

以上合計 52,481 円

【差し入れ】 不破さん：牛しぐれ煮 ありがとうございました。